

世界遺産登録に向けて

鶴子銀山(4) 上杉謙信と外山茂右衛門

天文11(1542)年夏、越後寺泊の商人外山茂右衛門は、沢根の地頭本間摂津守に願い出て、1カ月に銀100枚を上納することを条件に、鶴子沢上流で銀山を開発することになりました。このため、この地は「百枚平」と呼ばれるようになりました。銀1枚は、銀43匁(約161グラム)にあたるので、銀100枚はおおよそ16.1キログラムになります。

同じように、石見銀山を開発していた博多の商人神屋寿禎は、山陰・山陽の西部一帯を治めていた大名の大内氏へ、天文2(1533)年には1カ月に銀100枚を納めていました。この年に灰吹法の技術者を朝鮮から招いたので、銀の生産が飛躍的に伸び、天文12(1543)年には、1カ月に銀500枚(約80.5キログラム)を上納するまでになりました。

一方、この頃の鶴子は、18世紀末に編まれた史書『佐渡志』に、「功いまだ成さざるを嘆き、のち越後の国の領主上杉謙信にかくと訴えれば、入道が下知として、同国魚沼郡上田村の金穿人夫数百人を渡らしめ

て、天文の末弘治頃(1548~1558)まで銀銅を得たる中に金も少しく交りたれども、費用を補うに至らず」とあるように、あまり思わしくなかったようです。

それでも鶴子銀山は、永禄2(1559)年6月、謙信(当時長尾景虎)が上洛した折、京都の神社や寺院へ寄進する大量の銀をまかない、「上杉年譜」に「年々その産限りなし」と記されているように、上杉氏を支える有力な銀山でした。



鶴子銀山百枚平にある露頭掘り跡

◆市役所世界遺産推進課

(金井就業改善センター内)

☎ 63-5136

こんにちは

国際交流員です



佐渡市の皆さま、こんにちは！

私は、アメリカのオレゴン州から参りました Duong Vy Hoang (デュオン・ヴィ・ホアン) と申します。8月3日から市役所の国際交流員として働き始めました。

私は、子供の頃から日本のアニメが好きで、その中でも「ポケモン」と「美少女戦士セーラームーン」が大好きでした。それがきっかけで、幼いころからアニメを通じて日本の文化に興味を持つようになり、また、日本の音楽にも興味があり、歌詞を覚えて音楽を楽しむのと同時に、日本語の勉強もしました。

私が、日本語を勉強し始めたのは、高校に入ってからです。高校3年生の時に、日米水環境保全プログラム(日本人が環境問題について、どのように考えているかを学ぶ研修プログラム)で、日本を訪れたことがあり

ます。その研修で、新潟・佐渡を訪れ、環境への取組や環境問題に対する真摯な姿勢に感動して、日本への興味がより強くなっていきました。大学では、その影響もあり、より日本について勉強するために、日本語を専攻しました。

日本語の勉強はもちろん、日本の文化や歴史、社会問題を勉強する中で、日本語を活かしたい、日本で働きたいという気持ちが強くなり、国際交流員に申し込みました。

今こうやって、日本で、そして高校生時代に訪れたことのある佐渡島で国際交流員として仕事をする事ができて、とても嬉しいです。

高校生の時に滞在した佐渡は、小さな島ですが、街から離れば離れるほど自然豊かできれいな印象でした。ただ、限られた時間の中で、佐渡島の全てをしつかりと理解することは、佐渡の全てをしつかりと時間をかけて理解し、アメリカをはじめ、世界に発信していきたいと思えます。また、英語講座などを通じて、佐渡の皆さまとも交流を深められたらと思っています。

まだまだ日本語は上手ではありません。また、仕事でも分からないことばかりですが、いろいろ勉強をして、活動していきたいと思えますので、皆さま宜しくお願いします。